

国際交流をさらに進め、空・宇宙（そら）への夢、感動を伝える博物館に。 平成30年3月リニューアルオープン

先人の空・宇宙への憧れ、挑戦の物語を伝え、次代の子どもたちにチャレンジスピリットと感動を与える博物館へ。展示面積を約9,400平方メートル（現在の1.7倍）に増床し、航空・宇宙エリアともに展示内容を充実させます。



リニューアル後の博物館外観

航空エリア ～航空技術史が俯瞰できる場～

「航空エリア」では、日本最多を誇る実機を年代ごとに配置。

また、1940年頃に岐阜で製造され、世界で唯一現存する三式戦闘機「飛燕」の実機や、世界的な名機「零戦」の初飛行時の実寸大模型（十二試艦上戦闘機）を展示します。

人類の空への憧れや挑戦の物語をわかりやすく展示し、国内初の「航空技術の歴史が俯瞰できる博物館」を目指します。



「飛燕」(実機)(左)と「零戦」の初号機(実寸大模型)(右)



実機展示場

海外連携

世界の優れた技術や人類の航空宇宙への挑戦史を紹介するとともに、世界の著名な博物館等との間で、展示品の貸借、展示・企画手法の調査研究をはじめとした国際交流、国際協力を進めます。



「スミソニアン航空宇宙博物館」と「NASA」との連携協力を要請

→スミソニアン航空宇宙博物館との連携協定

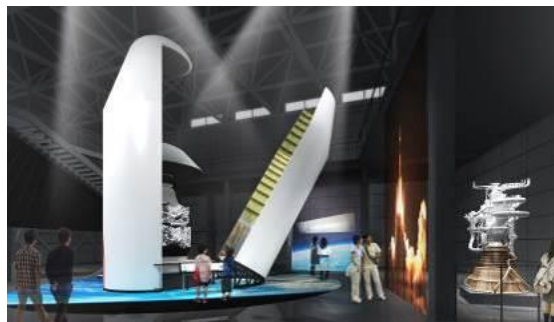
- ・展示物の貸借
- ・人材交流

宇宙エリア ～より遠くへ行く技～

「宇宙エリア」では、アポロ計画やスペースシャトルをはじめとした人類の宇宙への挑戦の物語や日本の宇宙開発の歴史を映像で紹介するとともに、

現在の宇宙開発の舞台であるISS（国際宇宙ステーション）の日本実験棟「きぼう」や、日本を代表する探査機「はやぶさ2」の実寸大模型などを新設します。

さらに火星探査など、これからの宇宙開発計画をいち早く紹介し、国内初の「人類の宇宙への挑戦史・宇宙開発技術の変遷を俯瞰できる博物館」を目指します。



大気圏と宇宙の違い

シンボル展示：
フェアリングとメインエンジン



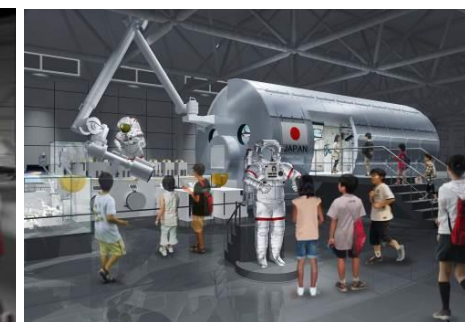
宇宙への出発

シンボル展示：
ペンシルロケット・H3ロケット



宇宙から暮らしを支える

シンボル展示：
GPS衛星、気象衛星、通信衛星



人を宇宙へ送る

シンボル展示：
ISSの日本実験棟「きぼう」



生命を探る宇宙探査

シンボル展示：
探査機「はやぶさ2」

「長年の人類の宇宙への挑戦の結果、到着した距離」を軸に宇宙エリアを配置